

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4373000530
法人名	医療法人 新清会
事業所名	グループホーム あしきた
訪問調査日	平成 19 年 12 月 20 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 25 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 1月22日

【評価実施概要】

事業所番号	4373000530
法人名	医療法人 新清会
事業所名	グループホーム あしきた
所在地	熊本県葦北郡芦北町芦北2015-6 (電話) 0966-82-2370

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成19年12月20日	評価確定日	1月25日

【情報提供票より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 0

(2) 建物概要

建物構造	木造・鉄筋 造り	
	2 階建て	1 階

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 88 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	水俣病院・篠原医院・井上歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

芦北の中心部に位置する“グループホームあしきた”は利便性の良い場所にあり、立地条件を活かして買物や地域への行事へ積極的に参加し、地域との交流に取組まれている。母体医院や併設老健と連携しての健康管理や緊急体制など入居者・家族の安心となり、職員の研修へのバックアップ体制や福利厚生が構築し、馴染みの関係の職員が明るく、さりげないケアで入居者の笑顔を引き出し、ゆっくと穏やかな生活を支援している。ホーム内の装飾や居室の名札等職員の特技が随所に活かされた家庭的な雰囲気の中に、理念を基に人としての尊厳を尊重したケアや入居者と家族の関係を大切にケアの実践である。管理者をはじめ職員の意思疎通も良く、自己評価・外部評価に関わらず、日常的に職員同士が休憩時間を有効に活用して話し合い、定例会議の中で法人全体で検討する等サービスの質の向上に意欲的に取組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価を受け、研修会を行い、即時出来る項目から改善している。事故報告書のレイアウトの変更により家族への説明の徹底化を図り、“あしきた通信”を創設する等具体的な改善が図られ、地域への啓発活動の一環としている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は1年間を振り返り、どのくらいまで出来たか1年間の集大成と捉え、全員で自己評価に取り組んでいる。自己評価・外部評価に関わらず、日常的に職員同士が休憩時間を有効に活用して話し合い、定例会議の中で法人全体で検討する等サービスの質の向上を図っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>18年5月より2ヵ月毎に行政・区長・民生委員・家族会代表、ホーム側から法人事務局と管理者の出席のもと開催され、入居者の状況や行事予定等の報告や委員の提案事項をもとにした検討や地域行事のリサーチ等が行われている。地域との交流の促進のため委員から意見や助言を受け、地域行事への参加や家族代表からの意見により、“あしきた通信”を近隣住民へ回覧し啓発に繋げる等具体的な改善に努めている。運営推進会議が地域の中での生活の接点として一役を担っており、今後更に地域に密着したホームとなることが期待できる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>19年5月創設した“あしきた通信”により、日常生活や行事予定をお知らせしている。訪問時近況報告を行うと共に、入居者の状況に応じ随時電話での報告や金銭出納帳を個別に作り押印での確実性を図っている。訪問時家族とのコミュニケーションに心がけ、意見や要望を聞くように努めている。苦情処理の概要に苦情・相談窓口を明記し、外部の相談窓口も玄関に大きく掲示したり、家族会の意見等をホーム運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議で地域との交流の促進に向け様々な地域の行事や祭りをリサーチした外出時の交流、通院時や法人主催の行事等へ参加し地域との交流を深めている。地域の文化祭へ入居者の作品を出品したり、歩道掃除等にも参加する等地域の一員としての活動により地域生活の拡充に取組まれている。ホーム近隣からの入居者が多く、ご近所の方々も気軽に遊びに訪問される等近隣住民との関係も構築している。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念“人間としての尊厳の尊重・個性の尊重・主体性の尊重”をもとに、運営の方針8項目の中に“地域住民又は自発的な活動等との連携及び協力を行う等の地域との交流に努める”ことを掲げている。	○	地域との関係強化や啓発活動に取り組まれており、地域との密着した関係方法等理念として掲げられる等検討していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念に基づいたケアの実践となっているかの話し合いをすることで共有化を図り、掲示された理念を職員が見ることで意識付けを行っている。職員の態度や入居者への関わりなどからも理念の実践へ向け取組まれている事が窺われる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議で地域との交流の促進に向け様々な地域の行事や祭りをリサーチし外出支援を行い、通院時や法人主催の行事等へ参加し、地域との交流を深めている。地域の文化祭へ入居者の作品を出品したり、歩道掃除等にも参加する等地域の一員としての活動により地域生活の拡充に取り組まれている。ホーム近隣からの入居者が多く、近所の方々も気軽に遊びに訪問されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4	7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者は1年間を振り返り、どのくらいまで出来たか1年間の集大成と捉え、全員で自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価を受け、研修会を行い、即時出来る項目から改善している。事故報告書のレイアウトの変更により家族への説明の徹底化を図り、“あしきた通信”を創設する等具体的な改善が図られ、地域への啓発活動の一環としている。自己評価・外部評価に関わらず、日常的に職員同士が休憩時間を有効に活用して話し合い、定例会議の中で法人全体で検討する等サービスの質の向上を図っている。</p>		
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>18年5月より2ヵ月毎に行政・区長・民生委員・家族会代表、ホーム側から法人事務局と管理者の出席のもと入居者の状況や行事予定等が報告され、委員の提案事項をもとにした検討や地域行事のリサーチ等が行われている。地域との交流の促進のため委員から意見や助言を受け、地域行事への参加や家族代表からの意見により、“あしきた通信”を近隣住民へ回覧し啓発に繋げる等具体的な改善に努めている。運営推進会議が地域の中での生活の接点となってきている。</p>	○	<p>運営推進会議は家族会代表者の参加となっており、更に他の家族の参加や議事録を全家族へ配布されることを望みたい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場が隣接しており、法人事務局がパイプ役となり入居情報を得たり、介護認定更新時に担当者に相談等行い、様々な町主催の研修に参加し、質の向上に取り組んでいる。	○	町に対して積極的にホームとして出来ることなど情報を提供し、町と一体となって認知症ケアを推進されることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	19年5月創設した“あしきた通信”により、日常生活や行事予定をお知らせしている。家族の訪問が多いホームであり、訪問時近況報告を行うと共に、入居者の状況に応じ随時電話で報告を行っている。金銭出納帳を個別に作り、押印での確実性を図っている。玄関横に掲示された多くの写真も家族へのメッセージの一つとしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時家族とのコミュニケーションに心がけ、意見や要望を聞くようにしている。苦情処理の概要に苦情・相談窓口を明記し、外部の相談窓口も玄関に大きく掲示したり、家族々の意見等ホーム運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの職員による支援の重要性や責任を持ってケアに当る事の必要性を認識して全職員を常勤としている。産休産後等福利更生が確立しており、継続して働くことが出来ることで離職防止になっている。管理者はどんな些細な事でも職員の意見を取上げ、皆で改善策を検討する等コミュニケーションに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での勉強会、町主催の研修やリーダー研修等多くの研修や勉強会へ全職員がローテーションを積んで参加している。法人のバックアップ体制のもと介護教室等の外部研修等掲示し全職員へ周知を図り、資格取得に向け自己啓発に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームブロック会議に参加し情報交換に努め、同法人内のホーム同士の交流や近隣のグループホーム等との交流又地域での研修会参加等により他のホームの取組み状況の把握や質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人の事務長が本人や家族にホームの全体像を説明し、前施設の看護サマリー等情報を得て状況を把握し、本人・家族と見学してもらい本人が納得した上での入居としている。家族の協力のもと、職員の声かけや寄り添い、家族の頻繁な訪問等協力を得て、ゆっくりと徐々に馴染めるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一方的にケアするのではなく、「もうひとがんばり。」と励ましたり、入居者の得意分野を發揮してもらおうと季節行事にはおはぎや饅頭を一緒に作ったり、敬う姿勢を大切に取組んでいる。心と心のつながりを大切にしたケアに臨まれている事が職員の聞き取りから確認できた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を採用しており、日常発せられる希望や意向・多くの会話や表情から把握し、常に家族の意見を聞き、担当職員の意見をもとに全職員が情報の共有化に努め、本人本位となるようプランに反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	初期段階では施設を訪問し様子を観察したり、ケアマネージャーや看護師からの情報をもとに暫定プランを立て、担当者の気づきや観察の結果、家族を含め検討し、正式なプランを作成している。センター方式を採用し、担当制により職員の意見が反映された個別援助計画となっている。職員全員がプランを立てることが出来るように2名のケアマネージャーによる勉強会を開催している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1回の定期的な見直しの他、ホーム職員による定例ケア会議や医師・法人事務長・管理者による担当者会議を毎月開催し、家族の意向や介護への思いを取り入れ、入居者の心身の状況に応じ随時の現状に即した見直しが行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買物・受診への同行、特に受診時車椅子対応の車を借用できる事や全員での遠出には併設施設より専属の運転手の方が大型車で送迎を担当されるなど細やかな支援が得られる等柔軟に対応している。医療との連携により、受診や入院の回避・早期発見に向け取り組んでいる。ショートステイも検討されており、今後更に多機能性を活かした取り組みが期待できる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医院がかかりつけ医となっている。日常的な受診や緊急時対応・夜間帯の往診や母体医院でもホーム対応窓口の担当看護師を置く等連携して取り組み、適切な医療が支援されている。毎日、医師でもある理事長が訪問され、職員からの報告と入居者の状況把握に努められている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族の意向を聞き、状態変化時に家族と相談し、かかりつけ医との連携を図っている。母体が医院であることや併設に老健もあり、医療行為が必要な時点で入院等の検討を行っているが、今後訪問看護と連携し、家族の希望される場合には最期まで支えていく意向である。	○	重度化や終末期をどのようにしたいか家族と話し合いを重ね、ホームで最期まで一緒に過ごしたいという希望には、ホームに関わる事・できることを明文化し、入居者個々の具体的な対応方針等協議をし、早い段階から家族の同意を取り、全職員が思いを共有し、その実現に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の行動を把握し、方言の自然な会話は入居者にとって分かり易く親しみやすい。職員の目線での傾聴・居室への入室時のノックや声かけ等入居者一人ひとりに敬愛の念を持って当たっている事が確認できた。プライバシーの保護の勉強会を行ったり、個人情報保護方針・目的を掲示、職員一人ひとりが理念を認識しケアに当たっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意志を尊重し、自由な生活を支援している。日中の過ごし方や食後の過ごし方も様々であり、入居者一人ひとりのそれぞれの今を大切に、個々のペースや希望に沿った対応となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何を食べたいか聞いても「何でもいい。」といわれる入居者が多く、多くの料理本を参考に栄養面へ配慮しながら献立を決め、調理への参加は立ち仕事のため無理があり、出来る事・やりたい人にジャガイモの皮むきやもやしの根切り等手伝ってもらい、ゆっくりとした食事を支援し、後片付け等一緒に行われている。部屋から菜園が見え、野菜の大きくなる過程を楽しまれる事も利点であり、収穫した野菜が献立に上ると食事時の話題の一つとしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後からの入浴であるが毎日支援している。ゆず湯や菖蒲湯等季節感への対応や入浴剤を使用し、ゆっくりとした入浴を支援している。時には温泉の家族風呂等も外出支援を兼ね行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的な洗濯物干し・たたみ、お仏飯の上下げやお仏壇の花の水の入れかけは入居者自ら率先して行われ、午後の時間はカラオケで歌ったり、リハビリ体操を取入れ身体機能低下防止に努め、職員による新聞の読み聞かせ等が行われている。又、地域の文化祭に箸置きや習字・粘土細工等入居者の作品を出品し、入居者の自信へと繋げる等生活歴や入居者の潜在能力を活かした支援が行われている。楽しみごとの支援として誕生会やクリスマス会等季節に応じた行事も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前中は病院への受診、天気の良い日には散歩等戸外への外出や買物等希望に応じ支援している。家族も散歩に連れ出されるなど協力的であることも日常的な外出支援に繋がっている。又、季節に応じ、計画的な外出支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を全職員が認識し、居室、共有空間全て全開のサッシであり、職員の細やかな気配りや寄り添い、入居者の状況に応じ傾聴する等の支援により、施錠の無いケアを実践している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回消防署立会いでの避難訓練が実施されている。通報から避難、消火器の使い方等入居者参加で行われていることが掲示されている写真から確認できた。煙探知機・防火センサーも備えられ、緊急時連絡体制も整い、消防署や警察に隣接したホームであることも安心した生活となっている。運営推進会議で避難場所を確認をし、近隣にも協力依頼をする等万全な対策を講じている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表にバイタルと共に食事摂取量を記録し健康管理を行っている。水分量はチェックしていないが、食事時や午前・午後のおやつタイムや入浴後の水分補給水、水分量の少ない入居者には好きな飲み物に変更したり、家族の協力も得ながら水分確保を行っている。入居者の嗜好やきらいな物を掲示し、料理本をそろえ、栄養の偏りに注意しながら献立を作成している。状態に応じ、粥食や野菜のゆで時間を変えたりと等個別対応で支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	山茶花の垣根、玄関周りの花々、スロープのある玄関、広い畳の間には仏壇やテレビ・炬燵・ソファー等を置き入居者の皆さんがゆっくりと寛がれている。共有部分全てに花や入居者の作品・クリスマスツリー等季節感への配慮と職員の特技とアイデアが活かされ、居室の目印は職員手書きの似顔絵を掲げている。室内は明るい採光とすがすがしい空気と清潔感が溢れ、居心地よく過ごす工夫が随所にみられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下を隔てて左右に畳とフローリングの居室となっているが、状況に応じ畳からフローリングに変更したり、ベッドの位置を随時変更し、家族の協力が得られた居室となっている。毎月職員の持ち寄った花を入居者と一緒に活け、居室に飾っている。家族の協力と職員の特技を活かし、心地よい居室となるよう工夫している。		